

52. 読売新聞大阪発刊 70 周年 記念講演会 未来の科学者たちへ

宇宙飛行士 野口聡一

宇宙飛行士として、米スペースシャトル、露ソユーズ、米民間企業スペース X のクルードラゴンという 3 種類の宇宙船に搭乗しました。2022 年 6 月に、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) を退職し、今は東京大学特任教授として、自分自身を研究対象とする「当事者研究」にも取り組んでいます。

2020 年のクルードラゴンの搭乗では、タッチパネルなど最新技術の導入で快適さが飛躍的に増し、「蒸気機関車からリニア新幹線」と思うほどの進化を実感しました。民間企業による宇宙旅行が世界的に活発になる中、皆さんが大人になる頃には宇宙旅行がもっと身近になっているかもしれません。

講演会では、地球とは全く異なる無重力下での不思議な体験、様々な国の宇宙飛行士らと一緒に成し遂げるミッション、宇宙から地球を見た時に感じた思いなど、私の経験をお話しします。科学を学ぶ皆さんが、この機会に科学技術の可能性や宇宙開発への関心を高めてくれればうれしいです。



<プロフィール>

1965 年生まれ。東京大学大学院修了、博士 (学術)。先端学際工学専攻。1991 年 (株)IHI 研究開発部勤務。1996 年宇宙飛行士候補に選抜される。2005 年スペースシャトル・ディスカバリー「STS-114」に搭乗し日本人として初めて国際宇宙ステーション (ISS) で船外活動を行う。2009 年日本人として初めてソユーズ宇宙船 TMA-17 に船長補佐として搭乗する。2014 年国際 NGO 法人「世界宇宙飛行士会議」会長にアジア人で初めて就任。2019 年にサウジアラビア宇宙委員会の諮問委員に就任。2020 年米国人以外で初めて SpaceX クルードラゴン宇宙船に搭乗し「世界で初めて 3 種類の違う帰還 (滑走路、地面、海面) を達成した宇宙飛行士」でギネス世界記録に認定された。ISS 滞在通算日数 335 日、船外活動 4 回は日本人最多。2022 年「宇宙からのショパン生演奏」動画などで YouTube Creator Award 受賞。

合同会社「未来圏」代表、東京大学および日本大学特任教授。(株)国際社会経済研究所 理事。(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団理事。(株)イー・ウーマンアドバイザー。趣味は料理、キャンプ、飛行機操縦。